

社会科学習指導案

平成 29 年 7 月 5 日(水)5 限

1 単元名 「自然環境の特色」(第 2 章 世界と比べた日本の地域的特色)

2 単元について

(1) 単元観

本章では、世界的視野から日本を一つの地域として取り扱ったり、日本全体の視野から大まかな国内の地域差に着目させたりすることによって、日本の国土の特色を理解させることを主なねらいとしている。そして本単元は、そのねらいを達成するための一つとして「自然環境」の視点で特色を学習する。自然環境に関して学習指導要領では、「世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。」とある。今回、単元構想図を作成して「日本の自然環境はどのような特色があるのだろうか?」を<単元を貫く問い>とした。毎時間、単元を貫く問いに繋がる習得すべき知識を学習していくことを通して、日本の自然環境の特色を大観できると考えた。また、知識を生徒が主体的に習得しようとするよう主発問は、生徒の社会に対する見方や考え方が深まるような問いを設定した。

(中略)

(3) 単元観・生徒観に対する指導観

単元構想図をもとに、毎時の学習が繋がっていくように授業づくりをしていくだけでなく、視覚的にも繋がりがわかるように「学習カルテ」を活用する。日本の地域的特色を大観させるという大単元を常に意識して、毎時の主発問を、単元を貫く問いに関連させるものにするよう構想を立てた。また振り返り欄には、「考えたこと、はっきりしないこと」などを記入させることで、獲得した知識に対して自分がどのように考えたかを言葉で書かせるよう指示をする。

本授業の中では、「扇状地では果樹園が多い」という事実から、その実証と理由付けを考えさせたい。考える上ではシンキングツールを活用することで、思考の過程が視覚的に捉えやすいように工夫した。学習を進めていくことで、日本全体の自然環境の特色を実感させたい。そして、振り返りの視点を持たせることで、生徒自身が自己の変容や学びの良さを実感でき、さらに獲得させたい知識や考え方の確実な定着を促すことで、次の学ぶ意欲を高められるように指導したい。

(4) 単元構想図

第1時 世界の地形

MQ：日本は、なぜ地震が多いのだろう？

説明的知識

広大な平原や高原が広がっている地域にはほとんど見られないが、山地や山脈が連なっている地域（造山帯）では、地震や火山活動が活発である。日本は環太平洋造山帯に位置しているため、地震が多

単元を貫く問い

第2時 日本の山地・海岸と周辺の水

MQ：日本の山地や海岸、海にはどのような特色があるだろう？

分析的知識

日本の山地は国土面積の約75%をしめている。海岸には、砂浜海岸やリアス式海岸、珊瑚礁など様々である。日本を取りまく海は、暖流や寒流が流れ、優れた漁場になっている。

第3時 日本の川と平野

MQ：それぞれの地形で作られる作物が異なるのは、なぜだろう？

説明的知識

日本の川は、大陸の川に比べて長さが短く急である。そのため、山を削って土砂を運び、扇状地や三角州などの地形を形成する。水はけの良い場所や悪い場所で、それぞれの特徴に適した作物を作っている。また、近年では住宅地を開発するなど、技術開発も進んでいる。

第4時 日本の気候

MQ：日本の中では、地域によってどのような気候の違いがあるだろう？

分析的知識

日本は、温帯・冷帯に属するが長雨や台風、雪の影響を受けるため世界の同じ気候帯の地域に比べて降水量が多い。また、日本列島の中央部には山地や山脈が連なっているため、日本海側と太平洋側で降水量の分布に大きな差が見られる。

第5時 日本の様々な自然災害

MQ：日本で発生する自然災害は、地形や気候とどのように関係しているのだろう？

分析的知識

環太平洋造山帯に位置する日本列島では、火山や地震が多い。また、大雨や台風などの気象災害では、川や海の周りの低い土地に住んでいる人が多いことなどから被害が大きい。東北地方では気温による冷害によって農作物が不作になったり、雪の多い地域では建物や交通網に被害が出たりする。

日本の自然環境はどのような特色があるのだろうか？

第6時 自然災害に対する備え（まとめ）

MQ①：日本の自然環境はどのような特色があるのだろうか？（単元を貫く問い）

分析的知識

日本は環太平洋造山帯に位置し、国土の大半が山地や山脈で地震や火山も多い。山から流れる短く急な川によってできた多様な地形や、山地を挟んで異なる気候などの中で、地形を活用した生活や自然災害から身を守ったり課題を克服したりするための工夫を行っている。

MQ②：自然災害を防いだり、被害を少なくしたりするためにはどのような工夫ができるだろう？

分析的知識

防災対策として、建物の補強や地域の堤防やダムの建設ができる。また、ハザードマップや避難場所を確認したり自分の地域の特徴や過去の記録を知ったりする防災教育を進めることなどができる。

(5) 単元のねらい

- ・日本の地域的特色に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・自然環境の特色が生活に大きな影響を与えていることを説明している。(社会的な思考・判断・表現)
- ・雨温図の読み取りなどから、地域の気候の特色を理解している。(資料活用の技能)
- ・世界と日本の自然環境を比較し、地形、気候、自然災害の観点からどのような特色があるか理解している。(社会的事象についての知識・理解)

(6) 単元の評価規準

社会事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象への知識・理解
①日本の自然環境にはどのような特徴があるか意欲的に学習している。	①それぞれの地形の特徴を活かして、農業や生活をしていることを理解している。	①雨温図や教科書の資料を読み取ることで、日本海側と太平洋側で降水量の分布に大きな差があることを理解している。	①世界の造山帯の種類や日本が属する造山帯、海岸の種類などを理解している。 ②気候区分や気候の特色を理解している。

(7) 指導と評価の計画

学習過程	主な学習活動	評価規準			
		関	思	資	知
学習課題をつかむ	第1時 世界の地形 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 単元を貫く問い：日本の自然環境はどのような特色があるのだろうか？ ・ 教員と生徒のやりとりの中で、問いが提案される。 MQ：日本は、なぜ地震が多いのだろうか？ ・ 世界の地震や火山が多い地域と少ない地域を知る。地図帳を活用し、それぞれの地域の地形の共通点を考える。 </div>	①			①
	第2時 日本の山地・海岸と周辺の海 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> MQ：日本の山地や海岸、海にはどのような特色があるだろうか？ ・ 日本にはどれくらい山地が広がっているのか地図帳を活用して調べる。 ・ 日本の周りは、どのような海岸で囲まれているのかを写真などの資料から読み取る。 ・ 教科書の資料などから、日本沿海にはどのような海流が流れているかを調べる。 </div>	①			②
追究する	第3時 日本の川と平野 (本時) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> MQ：それぞれの地形で作られる作物が異なるのは、なぜだろうか？ ・ 日本の川の特徴を知り、それによってどのような地形になるかを考える。 ・ 資料を読みとり、シンキングツールを活用して、それぞれの地形で、なぜ作られる作物が異なるのかを考えさせる。 </div>	①	①		

追究する	第4時 日本の気候	①		①
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">MQ：日本の中では、地域によってどのような気候の違いがあるだろう？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・写真などの資料から、日本各地の地域の気候を知る。 ・雨温図や教科書の資料を読み取ることで、日本海側と太平洋側で降水量の分布に大きな差があることを知る。 			
	第5時 日本の様々な自然災害	①		①
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">MQ：日本で発生する自然災害は、地形や気候とどのように関係しているの だろう？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・気象災害にはどのようなものがあり、それぞれどのような被害が想定されるかを考える。 ・教科書の資料などを参考に、なぜ被害が大きくなるかを考える。 			
まとめ	第6時 自然災害に対する備え（まとめ）	①		①
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">MQ①：日本の自然環境はどのような特色があるのだろう？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カルテを活用し、日本の自然環境をまとめる。 ・災害に対して行政が行っている対策を知る。 			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">MQ②：自然災害を防いだり、被害を少なくしたりするためにはどのような工夫 ができるだろう？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に対する備えとして、「今の自分」「地域の住民」「行政」のそれぞれの立場で何ができるかを考える。 	①		①

3 本時の学習について

(1) 主題名 「日本の川と平野」

(2) 本時のねらい

それぞれの土地で作られるものが、なぜ異なるのかを考えさせることを通して、それぞれの地形の特徴に合った作物を作っているということが説明できる。 (社会的事象への思考・判断・表現)

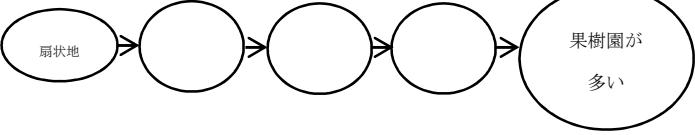
(3) 評価のための生徒の具体的な姿

評価の観点	十分満足ができる (A)	おおむね満足ができる (B)	努力を要する生徒への手立て
社会的な思考・判断・表現	それぞれの地形の特徴に合った作物を作っているから。鳥取のらっきょうは、栽培に砂地が適していて多く作られていると説明している。	それぞれの地形の特徴に合った作物を作っているからと説明している。	板書や資料の配置を構造化し、組み合わせることで説明文を作られるようにする。

(4) 研究に関する指導の工夫

「主発問を通じた考えさせる授業づくり」を目指し、事象間の関連性や法則性に気付かせられるような発問を考えた。また、単元を貫く問いを生徒と作り、単元構想図を元に毎時間を進めていくことで、毎時間を関連づけて学習できると考えた。授業の内容では、シンキングツールを活用することで、多様な意見を繋げて考えられるようにした。友達の助言で答えに向かっていくことが実感できると考える。

(5) 本時の学習過程 (第3時/全6時間)

学習活動	○主な発問 ・予想される生徒の反応	・留意点 ○評価【観点】 (方法)※手立て	時間
1 本時のねらいを確認する	○ねらいに対して「ものさし」で理解度を確認する。	・学習カルテを活用し、前時の学習をふりかえる。	5/5
2 日本の川の特徴を考える	○日本の川は、世界の川と比べてどのような特徴があるか。 ・短くて急流が多い。 ・流れが速い。	・「今日の地名」から繋げる。 ・川の長さを縮小したひもで比較し、考えさせる。	5/10
3 日本の地形の種類を調べる	○急流だと、どのような影響が地形に表れるだろう。 ・土が流されて、土砂が下にたまる。 ・川ができる。 ○こうして出来た地形を何というか？ ・平野、盆地。 ○平野や盆地には、どのような地形があるか？ ・扇状地、三角州、台地。 ○それぞれの地形では、どのような活用がされているだろう？ ・扇状地の真ん中（扇央）…果樹園 ・扇状地の末端（扇端）…集落が立地 ・三角州…水田や住宅地 ・台地…畑、茶畑、住宅地	・教科書で確認させる。 ・動画で確認する。 ・教科書から読み取る。	10/20
4 どのような特徴が活用されているのかを考える	○扇状地（扇央）では、なぜ果樹園が多いのか？  ・粒の大きい石がたまる→水はけが良い→果物の栽培に適している＝果樹園が多い。 ・扇状地では、大きい石がたまるため水はけがいい。果物は水はけが良いところで良く育つので果樹園が多い。 ○三角州では、なぜ水田が多いのか？ ・粒の小さい砂や泥がたまる→水はけが悪い→水がたまる→水田に適している→水田が多い。 ・三角州は小さい石や泥がたまるため水はけが悪い。稲作は水がたまらないと作れないので、水田が多い。	・資料を読み取りながら、シンキングツールを活用して理由を考えさせる。 ・扇状地は例題とし、説明しながら進めていく。 ・シンキングツールの矢印の意味を説明する。 ・ペットボトルと石を使って扇状地の水はけの良さを考えさせる。 ・三角州は班活動で理由を考えさせる。 ・思考を説明文にまとめて班長	20/40
5 全国の作物を確認する	◎ それぞれの地形で作られる作物が異なるのは、なぜだろう？ ・それぞれの地形の特徴に合った作物を作っている。鳥取のらっきょうは、栽培に砂地が適しているから多く作られている。 ・水が多いところと少ないところでは作られるものが違うから。 ・持っている土地で、作りやすいものを作るから。	○それぞれの地形の特徴に合った作物を作っていると説明している。 【思・判・表】(学習カルテ) ※板書や資料を参考にするよう声掛けをする。 ・らっきょうはなぜ多く作られているのかを考えさせる。 ・資料で掲示する。	5/45
6 まとめと振り返り	○「ものさし」と「振り返り」で今日の授業を振り返ろう。	・振り返りには、授業を通して、できるようになったことと分からなかったことを書くことを指示する。 ・次時の見通しを持たせる。	5/50

